



2018年10月30日から11月1日の3日間にわたり、国立大学法人 東京海洋大学越中島キャンパスに於いて、一般社団法人 測位航法学会主催の「GPS/GNSSシンポジウム2018」が開催され、当社も参加致しました。

23回目となる今回はみちびきのサービス開始と時期が重なり、「QZSS4機体制が拓く近未来」をテーマとして、QZSSの将来計画、各国の衛星システムの動向、受信機の動向、インドア・シームレス測位、測位応用技術等、さまざまなテーマの講演があり、活発な議論がなされました。当社は併設の展示会において、高精度単独測位結果を正しく補正する技術「セミ・ダイナミック リダクション」、衛星測位の評価・分析ツール「GNSS-Explorer」、三菱電機株式会社製の準天頂衛星対応センチメートル級高精度測位端末「AQLOC-VCX」の紹介を行いました。

11月1日には、みちびきの運用開始に合わせ、みちびきを利用した受信機を中心に観測デモが行われました。三菱電機株式会社のブースでは当社試作のAQLOCモニタシステムを利用したデモを実施し、CLAS（センチメートル級測位補強サービス）による高精度測位の活用に向け多くの意見を頂きました。

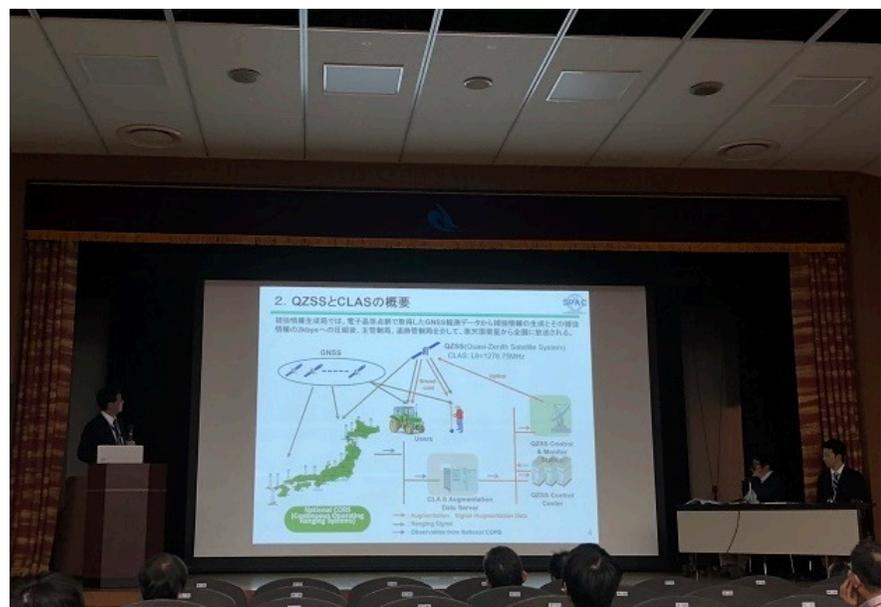
当社は、今後も高精度測位の利用拡大に向け必要な技術開発及び、事業推進を実施してまいります。

【併設展示会】

※弊社展示内容



【講演会場】 ※測位技術応用-1セッション（座長：弊社取締役 細井幹広）



【観測デモ】

